

第16回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

と き 平成27年4月10日（金）
テーマ たくさんの人に童謡を伝えたい
参加者 大島良子さん（弥生町）
高木由紀さん（川崎）
久保春美さん（山北）
横山雅子さん（林田）

市内で童謡などを伝承・普及する活動を続けて6年目を迎えた「童謡ひろば〜うたわらべ」の皆さんが、市長と意見交換を行いました



日本の文化である童謡を伝えたい

参加者 かつての日本の自然風土や歴史文化が歌い継がれた「わらべうた」と、その印象的な歌詞・曲調の唱歌や童謡は、自然の情景や表現、人との関わり方などを伝えるといわれています。また、赤ちゃんがおなかにいるころから生まれて10歳くらいまでの時期に童謡を聴くことで、聴力や言葉の発達、表現力、情緒を育むといわれています。

わたしたちは、赤ちゃんをはじめ、人の耳や心を育てる「心のゆりかご」として、童謡を繰り返し歌って伝えたいという思いで活動を続けてきました。

童謡に触れる機会をつくりたい

参加者 泣いている子どもが童謡を聴くと泣き止み、認知症の人が歌詞を見なくても最後まで歌って生き生きとした表情になるなど、童謡には人の心を動かす力があると思います。

最近、童謡を知らない人も増えているので、できるだけ幅広い世代の人に童謡を聴いて、一緒に歌ってもらいたいです。特に、子どもの成長やお年寄りのお世話に関わる人たちにも、生活の中に童謡を取り入れてほしいですね。

そこで、童謡に触れる機会を増やすために、イベントの開催を考えています。また、妊娠期から育児のサポートまで童謡を取り入れてもらえるよう働きかけを行うなど、さらに活動を続けていきたいと思っています。

市長から

昔から歌い継がれてきた童謡を伝えていかないといけないという思いは、先人が培ってきたことを大切にして新たなまちづくりを行っていく地方創生の考えと通じるものがあり、その必要性を改めて感じました。

子どもからお年寄りまで、童謡を伝える活動を続けていくことは重要なことです。いろいろな方法で広報を行って、たくさんの人に童謡に触れてもらえるようにしたいですね。